

学部

系が人気で、文学部や社会、国際学部は振るわない。受験人口は減っているが、国公立、私立とも入学定員を増やしており、競争緩和は一段と進んでいる。(日下部弘太)

2023年春入学の大学入試に向け、大手予備校河合塾が受験生の志望動向を分析した。前年に続き、全国、中部地方とも経済学部などの実学系や、医学部をはじめとする難関資格

系が人気で、文学部や社会、国際学部は振るわない。受験人口は減っているが、国公立、私立とも入学定員を増やしており、競争緩和は一段と進んでいる。(日下部弘太)

ウオッチ! 大学入試 河合塾 志望動向分析

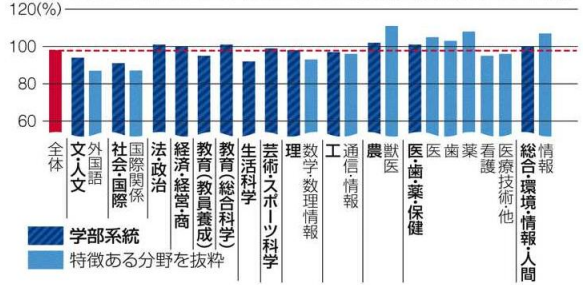
国公立大は、文系で法・政治学部が101%、経済・経営・商学部が100%と全体を上回った一方、文・人文学部が94%、社会・国際学部が91%と低迷が続いた。理系では農や医・歯・薬・保健学部が人気。情報やデータサイエンスは、文理融合の学部では

志望動向は、十月下旬に実施した第二回全統共通テスト模試で受験者に尋ねた。受験者数は前年比(以下、いずれも同じ)97%の二十四万一千人。志望校記入数も国公立大で98%、私立大で97%に減少した。

一方、同じ名大でも経済学部は99%とほぼ前年並み。志願者が前年に「割増えた」学部は96%と比較的落ち替している。名古屋市立大は経済学部の定員を増やしたが、志望者は101%と今のところ大きくは増えていない。愛知教育大の教員養成課程は100%と人気回復傾向にある。私大でも中京大の法学部111%、名城大の経営学部110%、南山大の経済学部106%など、法・経済系への

中部地方も文系は同じような状況で、名古屋大は文学部87%、教育学部82%と志望者が大きく減った。愛知県出身者で関東や近畿の大学への志望が増えたことが要因の一つと考えられる。

国公立大の系統別志望状況 ※河合塾調べ。前期日程。数値は志望者前年比(%)



「実学」「資格」人気続く

関心は高い。中部地方の理系は、国公立大で理学部93%、工学部92%と全国に比べ低い水準。私大は工学部91%に対し、理学部が115%と伸びた。中部大の理工学部新設などの影響とみられる。農学部は国公立、私立とも100%だった。

医学部は、名大、名中大、岐阜大の志望者がそれぞれ111%、125%と大きく増加。前年の倍率低下の反動から、競争激化の可能性がある。

女子のキャリア志向 顕著

全国の志望動向は、女子が引いて張って理系や法・経済系が増えた。女子の志望者は、国公立大の難関とされる10大学の理系で101%、文理融合系の学部で104%。準難関大の理系も105%と伸びた。私立大でも、法・政治105%、経済・経営・商104%、理107%、工105%、農108%、医113%と軒並み増加した。

河合塾教育研究開発本部の近藤治・主席研究員は「女子のキャリア志向が顕著で、いろんな分野に進出している」と、性差による志望の違いが薄れてきたと指摘。人文系や外国語系の不人気は「きっかけはコロナ禍だったが、女子の

※河合塾調べ、私立大の前期日程志望者

| | 男子計 | 女子 |
|---------|-----|-----|
| 全体 | 97% | 97% |
| 法・政治 | 99 | 105 |
| 経済・経営・商 | 101 | 104 |
| 理 | 100 | 107 |
| 工 | 98 | 105 |
| 農 | 104 | 108 |
| 医 | 109 | 113 |

動き自体が大きく変わりつつあるのでは」とみる。

大学側も理系の女子学生を増やす取り組みを進める。名大は工学部の2学科で学校推薦型選抜に女子枠を新設。東京工業大は、2024年4月入学の入試から、総合型選抜と学校推薦型選抜に女子枠を設ける。

学部新設 目立つ文理融合

学部新設では情報・データサイエンス系や文理融合系が目立つ。名古屋市立大は東海3県で初となるデータサイエンス学部を開く。ただ、志望倍率は2.3倍。爆発的な人気は出ておらず、様子見の雰囲気だ。名大や名古屋工業大の志望者が第2志望先として検討していることもうかがえる。

他にも一橋大が72年ぶりの新学部となる「ソーシャル・データサイエンス学部」を設ける。金沢大は未来の科学を創成する人材の育成をうたう「スマート創成科学類」、静岡大は幅広い知をつなげるとする「グローバル共創科学部」を設置。いずれも文理双方で受験できる。